

総合的な学習の時間

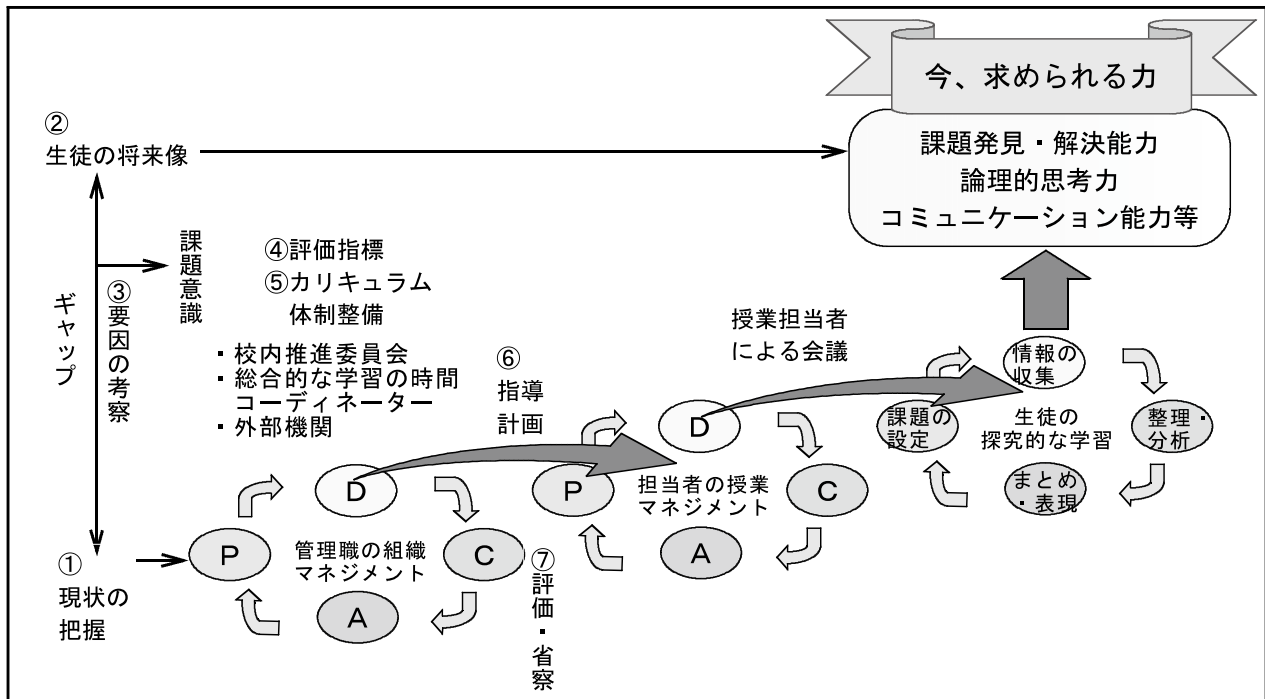
1 総合的な学習の時間の改善・充実

総合的な学習の時間の目標にある「横断的・総合的な学習や探究的な学習」を充実させるためには、学校における全教育活動に、育てようとする資質や能力及び態度を位置付けた全体計画及び年間指導計画、単元計画などを作成し、互いの専門性や特性を發揮し合っ
て実践していく校内推進体制を整える必要がある。特に、探究的な学習においては、教師が自分の知っている知識・技能を伝授することに終始するのではなく、学習主体の生徒同士が協同して合意を形成し、課題を解決するために、教師はコーディネート（調整）したり、ファシリテート（促進・援助）したりするという指導観を共有して指導に当たることが効果的である。

さらに、「問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度」を育てることが目標として示されており、他者と協同して課題を解決しようとする学習活動を取り入れることが重要である。協同的に学ぶことにより、探究的な学習として、生徒の学習の質を高めるとともに、多様な考え方を持つ他者と適切に関わり合ったり、社会に参画したり貢献したりする資質や能力及び態度を育成することが求められる。特に、高等学校においては、一人一人の学習の質を高めるために、生徒同士による学び合いや地域の大人との関わりを活用することが有効である。

(1) 学習活動を支えるカリキュラム・マネジメント

質の高い豊かな学習活動を推進し、生徒の課題発見・解決能力、論理的思考力、コミュニケーション能力等を高めるためには、各学校で総合的な学習の時間のカリキュラムを適切に編成し、次のようなサイクルでマネジメントすることが必要である。



カリキュラム・マネジメントのサイクル

- ① 地域や学校、生徒の実態等の現状を把握する。
- ② 求める生徒の姿等を目標として設定する。
- ③ 目標と現状のギャップを分析し、目標の達成を促す要因や拒む要因を考察する。
- ④ 目標の達成度を測る具体性のある評価指標を決める。
- ⑤ 適切なカリキュラムを編成し、それを支える体制を整備する。
- ⑥ 指導計画に沿って実践する。
- ⑦ 成果・効果を評価・省察してカリキュラムを改善する。

(2) 体制整備の4つの視点

カリキュラムを動態化させ、指導計画を確実に実施していくためには、校内の体制づくりが欠かせない。各学校が、適切な指導計画に基づき、生徒一人一人にとって、充実した総合的な学習の時間を実現するためには、次の4つの視点を取り入れた体制整備が重要となる。

校内体制整備のための4つの視点

校内組織の整備

- 生徒に対する指導体制
 - ・生徒の学習集団に応じた指導体制の工夫
- 実践を支える運営体制
 - ・学習を円滑に推進する教員の職務・役割の適切な分担と「校内推進委員会」の充実
 - ・運営の中心となる「総合的な学習の時間コーディネーター」と授業担当者による会議
- 校内研修の充実
 - ・定期的な研修の設定、効果的な研修の工夫

- ・学年内や学科内の教師が指導を分担し生徒の興味・関心などを基に学習集団を組織する。
- ・校内研修において、指導計画作成や教材づくりの演習、テーマに基づくワークショップなどを実施する。
- ・他校で開催される公開研究会に参加したり、先進校への視察を行ったりする。

学習環境の整備

- 学習空間の確保
 - ・体験活動を行う様々な場所、探究的・協同的な学習活動に対応した空間の確保
- 学校図書館の整備
 - ・学校図書館の学習・情報センターとしての機能の充実
- 情報環境の整備
 - ・ICT環境の充実と教員のICT活用指導力の向上

- ・多目的スペースや空き教室などにミーティングテーブルを設置したり移動黒板を用意したりするなど、多様な学習形態に対応できる空間を確保する。
- ・学習スペースに総合的な学習の時間に活用する教材や資料、実物や模型、写真などを展示し、いつでも生徒が活用できるように用意する。
- ・コンピュータ室を昼休みや放課後等も開放し、生徒が積極的に利用できるようにする。

授業時数の確保と弾力的な運用

- 年間授業時数の確保
 - ・単位の履修と修得に必要な授業時数の確保
 - ・体験活動を適切に位置付けた、確実かつ柔軟な実施
- 目的に応じた単位時間等の弾力化
 - ・生徒の実態、指導内容のまとめり、学習活動等を考慮して、効果的な単位時間・時間割を設定
- 1年間を見通した授業時数の運用
 - ・各学校の創意工夫による年間指導計画等の編成
 - ・活動の特質に応じ夏季等の長期休業日の効果的な活用

- ・毎週定期的に繰り返し実施する時期を設定したり、季節の変化や学校行事に応じて集中的に実施する時期を設定したりする。
- ・単元において、どの活動に何時間の授業時数が必要なのかを算出し、年間指導計画又は単元計画に明示する。

外部との連携の構築

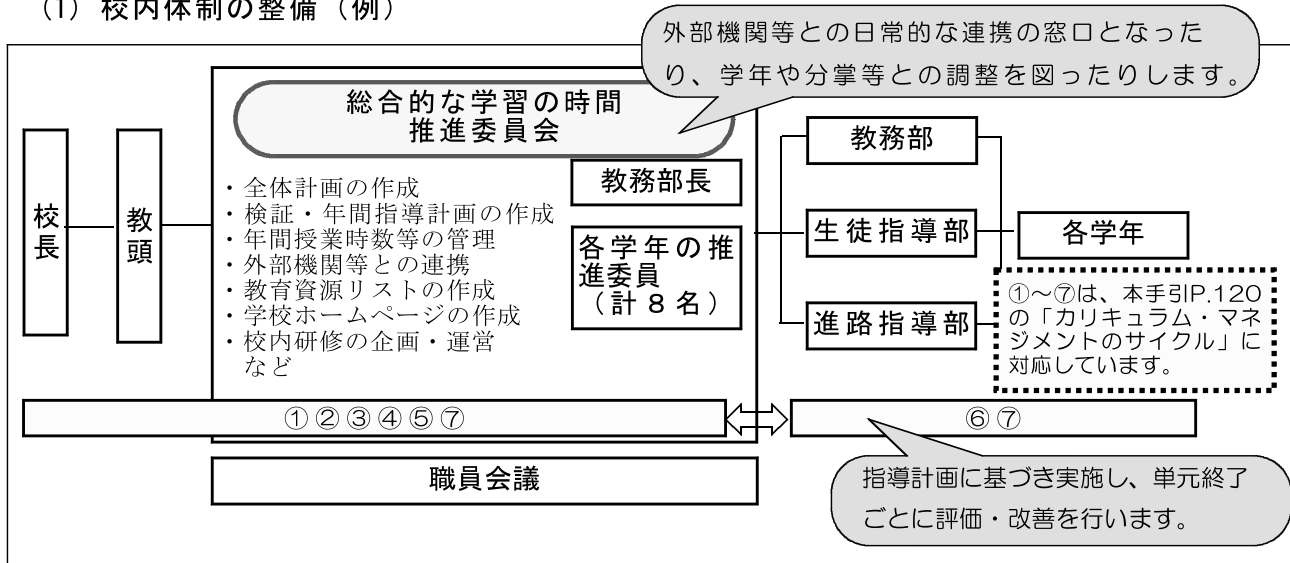
- 地域の教育資源の積極的活用
 - ・日常的な連携による協力的システムの構築
 - ・地域連携を推進する組織の設定と教師の配置
 - ・地域資源リストの充実と活用
- 総合的な学習の時間の成果の伝達
 - ・成果発表の場と機会の設定
 - ・学校と家庭・地域との信頼関係の構築
- 活性化に向けた生徒の地域貢献
 - ・生徒が提案等する体験の重視

- ・校務分掌上に外部連携部などを設置したり、外部と連携するための窓口となる担当者を置いたりする。
- ・学校公開日や学習の成果発表会などを開催したり、学校だよりを配布したりして、保護者や地域の人々に成果を発表する場と機会を設ける。

2 総合的な学習の時間における探究的・協働的に学ぶ学習の実践例

ここでは、A高等学校におけるカリキュラム・マネジメントを効果的に活用した実践例を示す。

(1) 校内体制の整備（例）



(2) 総合的な学習の時間の全体計画（一部）

全体計画では、学校教育目標や生徒及び地域の実態等を踏まえ、総合的な学習の時間の目標を定め、育てようとする資質や能力及び態度を明示した上で、各学年における探究活動を取り入れた学習活動の流れを示している。

評価の観点については、「関心・意欲・態度」、「思考・判断・表現」、「技能」及び「知識・理解」の4つの観点を定めている。

育てようとする資質や能力及び態度		内容
<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域の自然環境を活用した体験的な活動を通して、地域のよさについて気付くとともに、自然を大切にできる態度を育成する。 ○ 地域の施設や関係機関と連携した学習活動を行うことで、地域社会の一員としての自覚を持ち、郷土を大切にできる心情を養う。 ○ 3年間の学習を通して、人間と自然、産業、歴史のかかわりについて学ぶことで、自らの在り方生き方について考察する。 		<ul style="list-style-type: none"> ○ 河川調査の実施と分析、海鳥センター職員による講話の実施 ○ 職場訪問による調べ学習、職業人による講話の実施 ○ 地域の主幹産業である漁業体験 ○ 学習内容を壁新聞にまとめて、地域の人々を対象とした発表会の実施 ○ プレゼンテーションソフトを活用した、3年間の学習の発表
学習活動	評価の観点	指導体制
<ul style="list-style-type: none"> 【1学年】 <ul style="list-style-type: none"> ・地域の自然環境を教材として、グループ研究を行う。 【2学年】 <ul style="list-style-type: none"> ・地域の産業について、個人研究を行う。 【3学年】 <ul style="list-style-type: none"> ・地域の歴史と人々の生活について、グループ研究を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 【関心・意欲・態度】 <ul style="list-style-type: none"> 自然や産業、歴史などについて自ら主体的に考えようとしている。 【思考・判断・表現】 <ul style="list-style-type: none"> グループで学習したり調べたりしたことを整理して、適切に表現している。 【技能】 <ul style="list-style-type: none"> 設定した課題について、有用な情報を選択したり、適切な方法を用いたりしている。 【知識・理解】 <ul style="list-style-type: none"> 設定した課題を理解し、その解決に向けた知識を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「総合的な学習の時間推進委員会」による3年間を見通した全体計画及び年間指導計画の作成 ○ 各学年の推進委員を通じた分掌や学年及び外部機関との連携と全教職員の共通理解 ○ 単元ごとの評価及び改善方策の検討

(3) 単元の指導計画（概要）

総合的な学習の時間を探究的な学習とするためには、「課題の設定」、「情報の収集」、「整理・分析」、「まとめ・表現」の学習過程が繰り返され、スパイラルに高まっていくことが重要である。本事例においては、探究的な学習の成果を壁新聞にまとめ発表することにより、生徒が聞き手から質問を引き出し、ディスカッションを活性化させることをねらいとしている。

1 単元名 地域の自然と地球環境を考える			
2 単元の目標 地域の自然を対象とした探究学習を通して、地域の自然への理解を深めるとともに、自然と人間の生活の関わりについて考察し、積極的に環境問題を考えようとする態度を育てる。			
3 単元の評価規準			
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
自然に関する学習を通して、環境問題について考えようとしている。	河川調査などを通して学んだことや気付いたことを整理して、適切に壁新聞にまとめている。	河川調査を的確に行い、そこから得た情報等を分かりやすくまとめて発表している。	地域の自然環境や河川調査の方法を理解している。
4 主な学習活動 生徒は地理歴史科や公民科、理科の授業において、環境問題や河川の成り立ち、河川調査の意義や方法等について学習した後、河川周辺の環境観察や異なる2地点における水質調査、水生生物の調査をグループに分かれて行う。調査後、グループごとに調査結果をまとめ、発表・交流し、それぞれの調査結果から考えられる環境の変化等について話し合う。 なお、調査の結果や話し合いの結果は、壁新聞にまとめて校内掲示するとともに、地域の人々を対象とした発表会において紹介する。			

【壁新聞による発表のポイント】
 ・見出し、タイトル：相手に訴える言葉で
 ・説明の文章：簡潔明瞭に
 ・色使い：強調する部分に、色は多くしすぎない
 ・写真やイラスト：重要なものに絞る

(4) 学習指導や指導計画の評価と改善

次期学習指導要領の改訂に向けた「論点整理」においても、総合的な学習の時間における教科横断的な学びと、各教科における学習を相互に関連付けながら充実を図っていくことが、育成すべき資質・能力を身に付けていくための重要な鍵となると示されており、横断的・総合的な学習や探究的な学習の機会の充実を図ることが必要である。